

恵庭下水終末処理場

# 排熱利用設備整備事業

## ごみ焼却施設と連携し下水道資源を有効利用

現在 now

将来 future

下水終末処理場



下水汚泥を肥料及びセメント原料として利用しているが汚泥量が多く多額の資源化費用を要している。

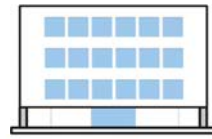
ごみ処理



埋立処分場の負荷軽減、無害・無臭化のため、焼却施設の建設が必要。なお、建設地では排熱の安定した有効利用が求められる。

下水終末処理場

ごみ焼却施設



下水終末処理場



乾燥下水汚泥  
(熱資源)



排熱  
(蒸気)



ごみ焼却施設

焼却施設から生じる排熱(蒸気)を利用した汚泥乾燥施設を新設

汚泥重量の減少(約1/3)

↓  
汚泥処理に係る維持管理費及び運搬に係るCO<sub>2</sub>を削減

焼却施設から生じる排熱(蒸気)を既設加温設備の熱源として利用

汚泥処理の効率化  
加温に使っていた消化ガス(汚泥処理過程で発生)を発電用に転用

↓  
消化ガスを効率的に発電!  
発電量は約2.3倍の  
287万kwh/年を想定。  
(約800世帯の年間電力消費量相当)

※ 1世帯当り3,600kWh/年で試算。出典：電気事業連合会

下水終末処理場に隣接して建設が予定されているごみ焼却施設と連携して“資源の相互融通”を図り、効率化による生産性の向上に寄与。

ごみ焼却施設の排熱を利用して汚泥処理を効率化し、発電による消化ガス(バイオマス)エネルギーの利用促進を図る。



MAP